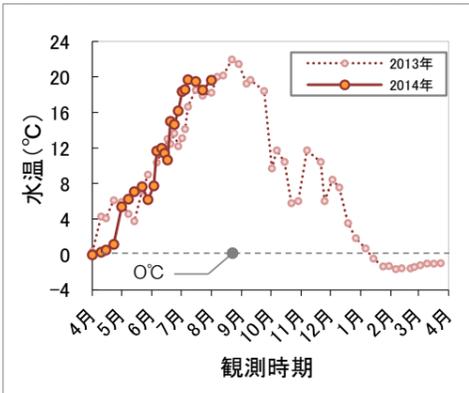


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2014年8月)

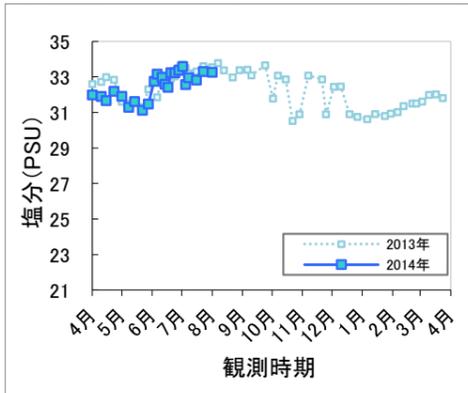
海洋環境データ

※観測：紋別市

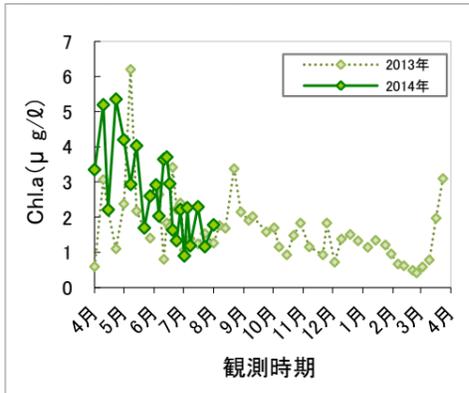
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



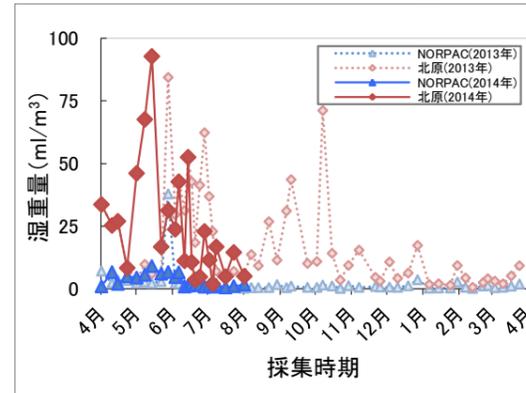
◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



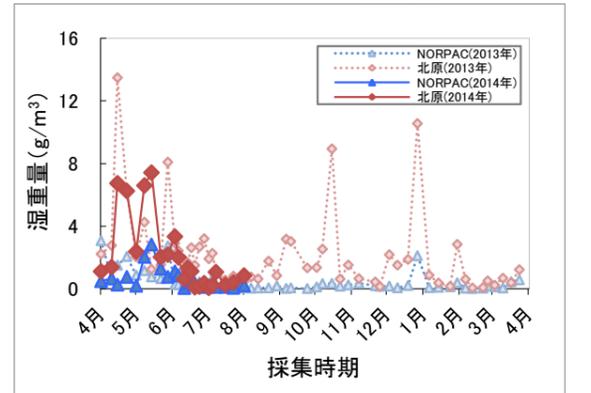
動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



◎動物プランクトン・湿重量



概要

Table with 5 columns: Date (8月4日, 8月13日, 8月18日, 8月28日) and rows for Average Temperature, Average Salinity, Average Chl.a, Sedimentation, Wet Weight, and Main Species.

出現量の多かった種類

Grid of images and descriptions for various plankton species including Paracalanus parvus, Clausocalanus pergens, Acartia steueri, Oithona similis, Copepoda (nauplius), Gastropoda (larva), and Pelecyopoda (larva).

※種名の先頭に"◎"がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の "+" は分析者主観による個体数の多さを示す (+)出現、(++)やや多い、(+++)多い、(++++)かなり多い、(++++)極めて多い。

※種名の後ろの記号は、北海道において後述の性質が強い種類を示す (◆冷水性種、◆暖水性種、■汽水性種)。

※今月のサンプルには腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量および湿重量にはこれらの重量も含まれている。

※参考文献：①千原・村野(1997)日本産海洋プランクトン検索図説[東海大学出版会]②山路(1966)日本海洋プランクトン図鑑[保育社]③岩国市立ミクロ生物館(2011)日本の海産プランクトン図鑑[共立出版]

④Wilson, M. S., 1966. North American Harpacticoid copepods. 8: The Danielssenia sibirica group, with description of D. stefanssoni Willey from Alaska. Pac. Sci. 20 (4), 435-444.

⑤Pinchuk, A. I., Hopcroft, R. R., 2006. Egg production and early development of Thysanocessa inermis and Euphausia pacifica (Crustacea: Euphausiacea) in the northern Gulf of Alaska. J. Exp. Mar. Biol. Ecol. 332, 206-215.

⑥林(2006)水産無脊椎動物学入門[恒星社厚生閣]